

# 近文第一小学校の熱中症対策について

## 暑さ指数 (WBGT) を用いた活動判断

暑さ指数 (WBGT) とは  
 熱収支に与える影響の大きい気温、湿度、日射・輻射など周辺の熱環境、風 (気流) の要素を取り入れた指標で、単位は、気温と同じ℃を用います。  
 「学校における熱中症対策ガイドライン作成の手引き」 (環境省・文部科学省)

学校では、児童生徒の熱中症を予防するため、定期的に暑さ指数 (WBGT) 計を用いて計測 (活動場所で測定) することで環境条件の評価を行うとともに、下表に基づいて日常生活や運動の実施可否等に関する判断を行います。

暑さ指数 (WBGT)	湿球温度 (注1)	乾球温度 (注1)	注意すべき生活活動の目安 (注2)	日常生活における注意事項 (注2)	熱中症予防運動指針 (注1)	本校の対応
31℃以上	27℃以上	35℃以上	全ての生活活動で起こる危険性	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が高い。外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。	<b>運動は原則中止</b> 特別の場合以外は運動を中止する。特に子どもの場合には中止すべき。	○屋内外で身体を動かす活動を中止する。
28～31℃ (注3)	24～27℃	31～35℃		外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。	<b>厳重警戒 (激しい運動は中止)</b> 熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。10～20分おきに休憩を取り水分・塩分の補給を行う。暑さに弱い人 (注4) は運動を軽減または中止。	○体温が上昇する運動等は中止する。健康管理を徹底し、10～20分おきに休憩を取るとともに水分補給を行う。
25～28℃	21～24℃	28～31℃	中等度以上の生活活動で起こる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に十分に休憩を取り入れる。	<b>警戒 (積極的に休憩)</b> 熱中症の危険性が増すので、積極的に休憩を取り適宜、水分・塩分を補給する。激しい運動では、30分おきくらいに休憩を取る。	○積極的に休憩を取る。激しい運動の場合は、30分1回以上の休憩を取るとともに水分補給を行う。
21～25℃	18～21℃	24～28℃	強い生活活動で起こる危険性	一般には危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。	<b>注意 (積極的に水分補給)</b> 熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。	○状況把握に努め、運動の合間に積極的に水分補給を行う。
21℃以下	18℃以下	24℃以下			<b>ほぼ安全 (適宜水分補給)</b> 通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分の補給は必要である。市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので注意。	○状況把握に努め、適宜水分補給を行う。

暑さ指数 (WBGT) は、判断基準の一つです。低い値であっても、運動強度や個人の体調等により、熱中症で救急搬送された事例があります。

(注1) 公益財団法人日本スポーツ協会「熱中症予防運動指針」より。  
 同指針補足 \* 乾球温度 (気温) を用いる場合には、湿度に注意する。湿度が高ければ、1ランク厳しい環境条件の運動指針を適用する。  
 \* 熱中症の発症リスクは個人差が大きく、運動強度も大きく関係する。運動指針は平均的な目安であり、スポーツ現場では個人差や競技特性に配慮する。  
 (注2) 日本気象学会「日常生活における熱中症予防指針 Ver.3」(2013)より。  
 (注3) 28～31℃は、28℃以上31℃未満を示す。以下同様。  
 (注4) 暑さに弱い人：体力の低い人、肥満の人や暑さに慣れていない人など。  
 下記ウェブサイトの情報を基に作成  
 (1) 環境省熱中症予防情報サイト <https://www.wbgt.env.go.jp/wbgt.php>  
 (2) 公益財団法人日本スポーツ協会「熱中症予防運動指針」  
<https://www.japan-sports.or.jp/medicine/heatstroke/tabid922.html>

参考：「学校の『危機管理マニュアル』等の評価・見直しガイドライン」 (文部科学省)

なお、暑さ指数 (WBGT) の予測値については、「熱中症予防情報サイト」 (環境省) を活用して、実況値・予測値を確認するものとします。

環境省『熱中症予防情報サイト』 <https://www.wbgt.env.go.jp/>



## 「熱中症警戒アラート」が発表，または予測されたときの対応

上川・留萌地区  
「熱中症警戒アラート」とは

### 発表

発表機会は1日2回  
【前日 17:00 当日 5:00 に発表】

環境省が、「熱中症予防情報サイト」において、上川留萌地域の暑さ指数（WBGT）算出地点のいずれかで、日最高暑さ指数（※）を33以上と予測した場合に発表

※一日のうちで最も高い暑さ指数

参考：「熱中症環境保健マニュアル2022」（環境省）

北海道すべての地点において、翌日の日最高暑さ指数が35以上となることが予測される場合は前日の14時頃に「熱中症特別警戒アラート」が発表されます。（R6.4.16 環境省報道発表）

## 臨時休業 実施検討

「熱中症警戒アラート」が発表されたときには、暑さ指数、児童生徒や地域の状況、学校の環境等を勘案し、計測地点（旭川、江丹別、東川など）が仮に予想指標が33を下回っていても、地域にアラートが出ている場合については、臨時休業の実施（時間の変更も含む）を検討します。

※登下校時の安全が確保でき、空調設備が整備されているなど、暑熱環境の危険性を低くできる場合には、必ずしも臨時休業とする必要はなく、状況に応じて判断する。

環境省熱中症予防情報サイトには、3日間程度の予測値（活動場所、時間帯）が掲載されるため、それを参考に対応の検討を進めます。対応の決定（臨時休業、下校時の繰り上げ、活動内容の選定等）には、予測値だけではなく、実測値が重要になります。また、予測値と自校の実測値の関係性を把握しておくことも必要です。（予測値よりも下方に出る、上方に出る等）

◆「熱中症警戒アラート」が発表されていない場合であっても、一定の時間間隔で暑さ指数（WBGT）を測定・記録（活動場所で測定）することが求められ、児童生徒の状況等に応じて日常生活や運動の実施の可否を判断するとともに、下校時間の繰り上げ等を検討します。

## 学校における対応

